

日本赤十字社医療センターで

呼吸器内科のスペシャリストに！



日本赤十字社医療センター呼吸器内科指導医

出雲雄大（部長）、猪俣稔（副部長）、栗野暢康（内視鏡診断治療科副部長兼任）、坂本慶太、藤岡遥香

後期研修医：伊東謙、三角明里、井村慎吾、潮平俊哉

日本赤十字社医療センター呼吸器内科での研修（呼吸器内科専攻医・後期研修医）の特徴

- ・ 都心の基幹総合病院での豊富な臨床経験
- ・ 学術活動の推進（後期研修中に英語論文執筆）
- ・ 偏りの少ない呼吸器重点研修による呼吸器専門医取得への近道

都心の基幹総合病院での豊富な臨床経験

2024 年の実績

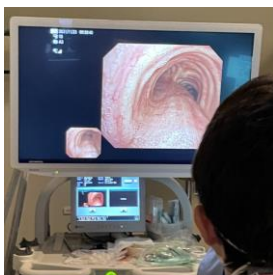
気管支鏡（EBUS-GS, EBUS-TBNA など）302 件
クライオバイオプシー：152 件
局所麻酔下胸腔鏡：10 件, CT ガイド下経皮肺生検：26 件
気管ステント・EWS：9 件

新規紹介患者数：約 1200 人

間質性肺炎に対する抗線維化薬の導入、難治性喘息の抗体療法導入
その他、PET-CT, CT ガイド下経皮肺生検、胸腔鏡下手術、
放射線治療（サイバーナイフ、リニアック、トモセラピー）、緩和ケア、
がんサージカルボード、なども充実

呼吸器内科専攻医・後期研修医の実際の臨床経験

気管支鏡：検査者として約 100 件/年
気管ステント、EWS、胸腔鏡なども経験可能
入院受け持ち患者数：約 1200 例/年
外来：1 コマ/週（専攻医 1 年次以降より可能（ただしご本人の能力などによります））、
外来担当のべ患者数：約 1000 例/年
肺癌化学療法（外来・入院）、気管支喘息治療、
肺炎治療、非結核性抗酸菌症の管理、ICU 管理、
結核の診断・外来治療など、
多くの呼吸器内科の疾患・検査・治療が経験できます

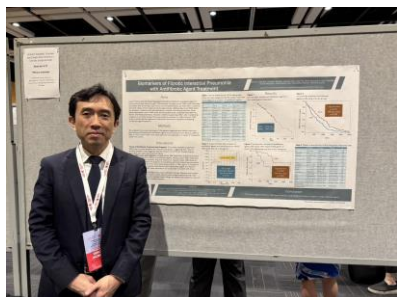


学術活動の推進

呼吸器学会，呼吸器内視鏡学会，肺癌学会，アレルギー学会や American Thoracic Society

(ATS)，European Respiratory Society (ERS) をはじめとした国内外での学会発表の推進

後期研修医・スタッフが臨床研究を行い英語論文執筆（2024 年度:15 論文）



呼吸器重点研修による呼吸器専門医取得への近道

呼吸器重点研修タイプ（2 年型）を採用

3 年間の内科専門研修の内 2 年間は当院呼吸器内科での研修+1 年間（連携枠:1.5 年間）は連携施設での研修

内科専攻医からの呼吸器専門研修の概念図



入院診療（受け持ち）：5～8 名前後

指導医—専攻医（後期研修医）—初期研修医の屋根瓦式チームで診療し、毎週のカンファレンスで治療方針を検討します

呼吸器内科全体の入院患者数は平均 30 名前後です

週間予定の一例

	月	火	水	木	金
午前	内科カンファレンス 病棟研修	病理カンファレンス 気管支鏡検査（緊急） 病棟研修	リサーチカンファレンス 病棟研修	気管支鏡検査（透視室） 手術室処置	部長回診 気管支鏡検査（緊急） 病棟研修
午後	病棟研修 新患入院カンファレンス 気管支鏡カンファレンス	病棟研修 がんサージボード	気管支鏡検査（透視室）	多職種合同カンファレンス 全入院カンファレンス	外来研修

連携施設

国立がん研究センター東病院呼吸器内科、神奈川県立循環器呼吸器病センター呼吸器内科、国立がん研究センター中央病院呼吸器内科、さいたま赤十字病院、茨城東病院呼吸器内科、飯塚病院呼吸器内科、東京大学呼吸器内科、千葉大学呼吸器内科、日本医科大学呼吸器内科、相模原日赤、沖永良部徳洲会病院、鶴岡市立荘内病院など多数の施設と連携（後期研修医の希望で連携施設を追加することも相談可能です）

処遇等

- （1）給 与：日本赤十字社医療センター雇用契約に基づき支給 約 600 万円～900 万円／年 ※時間外、賞与等を含む
- （2）保 険：社会保険（厚生年金・健康保険・雇用保険・労災保険）に加入（3）有給休暇：有（労基法に基づく）
- （4）宿 舎：無（但し住宅手当（諸条件有）および通勤手当の支給）

研修に関する問い合わせ先

日本赤十字社医療センター教育研修推進室 rinsyokensyu@med.jrc.or.jp または、

日本赤十字社医療センター呼吸器内科教育担当（部長）出雲 雄大 drtake1118@nu2.so-net.ne.jp